



※一つずつ丁寧に仕事をやり遂げていく
亀山社会的事業所「まかせ太君」で働く皆さん

輝き人生 ライフ

このコーナーではきらりと
輝きながら活躍する市民を
紹介します。



誰もが同じ立場で ともに働くということ 亀山社会的事業所 「まかせ太君」

障がいのある人もない人も、ともに働く場所「社会的事業所」。

一般企業のように障がい者と雇用関係を結び、働く場所を提供するとともに経済的自立の促進を目的としています。市内(南崎町)には、亀山社会的事業所「まかせ太君」があり、職員1人と10代～60代の障がい者(従業員)6人が、ハウスクリーニング、除草・剪定、引越し、不用品回収などの業務に日々取り組んでいます。障がいの内容や程度は皆さんそれぞれですが、働くことへの真摯な心構えを持って、今日も汗をぬぐいながら懸命に仕事に打ち込んでいます。

—社会的事業所の特徴的なところは？

「社会的事業所は、一般就労と福祉的就労の間に位置するもので、新しい雇用モデル事業と言えます

す。障がい者の社会的・経済的自立を目指すとともに、雇用契約(社会保険なども適用)を結び、一般就労相当の給与を支給します。」

—普段の仕事の様子は？

「愛知県から三重県中勢までをフィールドに、週5日勤務で毎日現場に出向いて働いています。仕事内容は日によりさまざま、時に大変な仕事もありますが、声を掛け合い助け合いながら、仕事を完了させていきます。障がい者は、サービスの受け手と思われがちですが、担い手として社会に関わっていることに気付かされます。」

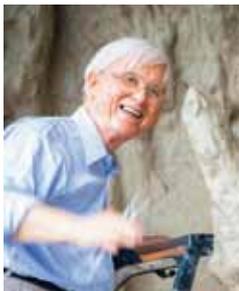
—これからは？

「空き家対策、農事などの新しい分野にも事業を拡大したいと考えます。また、障がいの内容や程度などさまざまな人がいるなかで、そ

れぞれが“適材適所”に役割を持って、分担して働ける仕組みを作れたらと思います。さらには、事業の継続性や採算性などの課題もありますが、仕事をしたいと願っている障がい者にとって、いきいきと働ける場所でありつづけることを目指していきます。」

—社会的事業所で働く感想などは？
(従業員の皆さんに聞きました)

「いろんな場所に行って、いろんな仕事に従事できるのがやりがいになっています。」「不慣れな仕事の時もあり苦勞することもあります。それでも責任をもって懸命に取り組んでいます。」「亀山社会的事業所のみんなはとても仲が良く、毎日楽しく働いています。」



亀山市名誉市民

彫刻家 中村 晋也

作品紹介「ふるさとあい」Vol.2

「おりこうちゃん」(平成6(1994)年制作)

大きなスリッパをつっかけたアトリエに入ってきた幼い女の子。この作品のモデルは中村の孫娘だといいます。「私をつくって」とばかりに気を付け！のポーズを取りはじめた幼子の、けなげで愛らしい姿に注がれる作家の愛情あふれるまなざしが感じられます。ほかにも子どもをテーマにした作品や、日本の懐かしい情景をノスタルジックに表現した作品は数多くありますが、この作品は子ども本来の無邪気な可愛らしさを素直に表現した作品のひとつです。



27.5cm(高さ)×9.0cm(幅)×9.5cm(奥行)

特別協力 公益財団法人中村晋也美術館([URL http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html](http://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/index.html))